

第15回 日本市民安全学会秩父大会

市民安全・安心フォーラム2017 in ちちぶ

セーフコミュニティ[SC]で 『つながる』『はぐくむ』『とどける』 安全・安心のかたち

秩父市SC国際認証2周年記念 セーフコミュニティで創るこれからのまちづくり



2017年11月25日(土) * 10:00-16:40 * 秩父宮記念市民会館

主催 秩父市セーフコミュニティ推進協議会 / 秩父市 / 日本市民安全学会

後援 警察政策学会市民生活と地域の安全創造研究部会 / (株)映学社

秩父市 SC 国際認証 2 周年記念

セーフコミュニティ（SC）で
『つながる』『はぐくむ』『とどける』
安全・安心のかたち

大会趣旨

「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」

秩父市ＳＣ国際認証２周年記念：セーフコミュニティで創るこれからのまちづくり

第１５回日本市民安全学会秩父大会

１ 企画趣旨

秩父市セーフコミュニティ推進協議会・秩父市・日本市民安全学会は、秩父市ＳＣ国際認証２周年と秩父市民待望の芸術文化創造拠点「秩父宮記念市民会館」の開館記念を祝し、「市民安全・安心フォーラム２０１７ in ちちぶ」を開催することになりました。

本フォーラムは、ＳＣ国際認証都市 秩父市が、市民会館の３つの基本コンセプト「つながる」「はぐくむ」「とどける」を、これからの秩父の安全文化創造の基本として将来にわたり市民の安全・安心の実現のため、世界基準の安全・安心なまちづくり「セーフコミュニティ（以下ＳＣという。）」を発展させていくことを祈念し、市民の方々と共に祝い誓い合うことを目的とした大会です。

２ 求められる地域特性に即した具体的・実践的な安全・安心のまちづくり

ところで市民生活の安全環境をめぐっては、近年、災害情勢や、地域社会、生活環境の急激な変化に伴い、安全・安心を脅かす危険や不安のかたちも大きく様変わりしています。これらの環境変化を踏まえつつ、かつ、地域特性に即したＳＣによる「具体的・実践的な安全・安心のまちづくりの創造のあり方」が求められています。

このため、本フォーラムでは、秩父市におけるＳＣの活動を基軸に、幅広い観点から身近な安全・安心を見つめ直し、ＳＣによる「より質の高い安全・安心なまちづくり」のあり方について、市民安全啓発映画祭、記念鼎談、分科会、全体報告会を通じて、各界の有識者ととともに地域の課題について議論を深めてみたいと思います。

目 次

■大会趣旨

□市長挨拶	1
□日本市民安全学会会長挨拶	3

■プログラム

□第1部 市民啓発映画祭	8
□第2部 記念鼎談	
鼎談1	1 1
鼎談2	1 3
鼎談3	1 5

□第3部 分科会

第1分科会	SCで『つながる』安全・安心の創造	1 7
第2分科会	SCで『はぐくむ』安全・安心の創造	2 6
第3分科会	SCで『とどける』安全・安心の創造	3 4

□第4部 全体報告会

「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」

■資料

□ 秩父市セーフコミュニティとセーフスクールの概要	4 4
□ 秩父市セーフコミュニティとセーフスクールのあゆみ	4 7
□ 日本市民安全学会のあゆみ	4 8



ごあいさつ

市民安全・安心フォーラムの開催にあたり

市民安全・安心フォーラム大会長
セーフコミュニティ推進協議会会長
秩父市長 久喜邦康

秩父市は、人口約6万5千人、面積577.83平方キロメートルで、埼玉県の約6分の1を占めています。周囲に山岳丘陵を眺める盆地を形成しており、市域の87%を森林が占め、豊かな自然環境と伝統文化が継承された魅力ある地域です。また、多くの祭りや観光名所があり、最近ではアニメや映画の舞台として描かれたり、テレビCMで紹介されるなど、年間約530万人もの観光客が訪れる観光文化都市です。

安全・安心なまちづくりに関しては、市の重要施策に掲げており、秩父市では従来から町会（自治会）をはじめ消防団や交通安全協会など様々な組織や団体が、地域の安全・安心のための活動を行ってまいりました。

しかし、一方で土砂災害や雪害の危険性が高い地域であること、また高齢化率が高いため、特に高齢者のケガや事故等の防止が重要となるなど、様々な課題が存在していました。

そのため、これから将来に向けて、当市が「ずっと住み続けたいまち」として発展していくためには、「安全・安心」ということが重要なテーマであり、当市にとって最適な方法であるセーフコミュニティの手法を取り入れ、安全で住みやすい安全・安心なまちを目指しています。

セーフコミュニティとは、「事故やケガは偶然の結果ではなく、原因を分析することで予防することができる」との理念のもと、科学的なデータに基づくプログラムと、地域・行政・家庭・学校などの「横断的な連携・協働」による安全・安心なまちづくりです。

秩父市では、2012年9月にセーフコミュニティの取り組み宣言を行い、当市の7つの課題である「子どもの安全」「高齢者の安全」「自殺予防」「自然の中での安全」「犯罪の防止」「災害時の安全」「交通安全」の対策委員会を立ち上げ、市民の皆様とともに共助による安全なまちづくりを行ってきました。

2015年11月には、これらの取り組みが世界レベルで認められ、WHO（世界保健機関）が推奨するセーフコミュニティの国際認証を取得することができました。

当市にとって、この国際認証の取得は一つの大きな成果となりましたが、安全で安心して暮らせるまちづくりを実現するための一つの通過点であって、更なる安全・安心なまちづくりは認証してなおその継続が求められ、現在、再認証に向けて高いレベルでの取り組みを実践・継続しているところでございます。

さて、秩父市では、セーフコミュニティの取り組みを、将来にわたり一層強力に推進することを決意して、2016年3月にセーフコミュニティ推進条例を制定しました。議員提出によるセーフコミュニティの条例が可決されたのは日本で初めてであり、この条例制定を契機に、議会や市民の皆様と手を携えながら、「ずっと住み続けたい日本一安全・安心なまち」を目指して、セーフコミュニティの取り組みに邁進していく決意でございます。

今回、開催いたします「市民安全・安心フォーラム2017 in ちちぶ」は、安全・安心なまちづくりに携わる全国の関係者の皆様とともに、セーフコミュニティの取り組みや成果などを

学び合うことにより更なるセーフコミュニティの推進と、地域の安全・安心の質を高めていくことを目的としています。

この機会を通じ、皆様とともに、秩父市のセーフコミュニティの取り組みをより効果的なものとし、安全・安心なまちづくりを、確たるものにしていきたいと考えています。

セーフコミュニティを始めての成果

人身交通事故件数（警察データ）

2012年（SC取組前）

2016年

280 件



218 件

22.1%減少

刑法認知件数（警察データ）

2012年（SC取組前）

2016年

474 件



363 件

23.4%減少

山岳遭難件数（警察データ）

2012年（SC取組前）

2016年

34 件



27 件

20.6%減少

自殺者数（厚生労働省データ）

2013年（SC取組前）

2016年

20 件



9 件

55%減少



ごあいさつ

「『つながる』『はぐくむ』『とどける』」に寄せて

日本市民安全学会会長

石附 弘

御祝いと御礼

まずもって、秩父市セーフコミュニティ（ＳＣ）国際認証２周年記念、こころからお祝い申し上げます。また、秩父市民待望の芸術文化創造拠点「秩父宮記念市民会館」の開館おめでとうございます。本大会には、ＳＣのご指導をされた白石陽子先生、ＳＣ推進自治体の厚木市や箕輪町、豊島区の皆様、また、全国から日本市民安全学会の会員も参加を頂いております。ありがとうございます。

日本市民安全学会は、各地の地方自治体との共催等により市民の生活安全等の啓発普及活動を行ってまいりました。この７月には、富山市において大会を開いたところであり、秩父市の大会は１５回目の大会になります。歴史と文化に育まれ、そして自然の豊かさに恵まれたこの秩父市において、このような大会を行うことができたことを、日本市民安全学会を代表して御礼申し上げます。

主語も目的もない「『つながる』『はぐくむ』『とどける』」を考える大会

今回のフォーラムは、市民会館の基本コンセプト『つながる』『はぐくむ』『とどける』という大変素晴らしいキーワードを拝借し、「セーフコミュニティで『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心」を取り上げました。普通このような大会では、子ども安全とかいじめ防止とか会議の目的が明確です。が、今回は違います。『つながる』『はぐくむ』『とどける』には、主語も目的も、つまり、WHO（誰が）、WHOM（誰と）、WHAT（何のために）がありません。私どもの学会のモットーは「共に考え、共に学び、共に行動する」ですが、これも誰と何を何のために考えるのかは白紙です。共に考えること自体が重要だといっている。これは、一体、何を意味するのでしょうか？

コミュニティビルディング

近年、アイスブレイキングとかコミュニティビルディングという社会技術の開発が進んでいますが、どうすれば『つながる』ことができるか、『共に考える』ためには何をすれば良いか、その社会技術を習得しないと先へ進めない。こういう観点からＳＣを見ると、その魅力が倍增することでしょう。

「コミュニティ」（異質の人々の集まり）の中で、共通点（課題や目標、価値観）を探し、「コミュニティの絆（結び目）」を再構築しようとするものです。

「コミュニティ」（COMMUNITY）の原義も目標がない

淵源をたどれば、「コミュニティ」の言葉は、ギリシャ語の「ともに」と「たたかう」の合成語と言われ、それ自体、何に対してどう戦うのかは白紙です。つまり、安全環境の変化があれば、いつでも最適対応できたための「創造的な組織構築原理」というべきものではないでしょう

か。

つまり、情勢や環境に変化に応じて、『つながり方』『はぐくみ方』『とどけ方』を工夫し、地域特性に即した「具体的・実践的安全・安心のまちづくりを創造」していくことが可能であり、地域社会（人間）開発プログラムのツールとして普遍性をもっているのが、この3つのキーワードであり、それ故に、成長エネルギー（運動力学）を有するのではないかと考えています。

SCの活動原理に通ずるところが多々あると思います。本フォーラムが、その『思考法と行動様式』を学ぶきっかけになれば幸いです。

顧みれば、今世紀に至り、安全問題は、地球規模においても、国家規模においても、私たち市民生活の場においても、最重要の課題として急浮上しました。市民生活の安全を脅かす犯罪、事件、事故等の社会事象が一層複雑化と深刻化の度合いを深め、市民の生活に大きな損害と不安を与えています。市民生活の安全問題は、今や一人ひとりの市民にとって大きな関心事であり、国や自治体にとっても社会全体で取り組むべき喫緊の課題となっています。

もとより市民生活の安全・安心問題は、市民・警察・自治体がまさに三位一体となり、これに関係する安全問題の専門家、関係業界はじめマスコミなどそれぞれの関係者が相互に連携・協力・協働して問題解決を図っていくことが必要不可欠です。

私たちの学会は、「市民の安全」をめぐる現状および将来のあり方を、市民生活の現場から捉え直し、今後とも「市民が主役の安全・安心まちづくり」のため、市民安全学の発展・普及に微力ながら尽くしてまいりたいと考えています。

皆様が苦勞して獲得されたSC国際認証は、WHOの推奨する世界基準の安全安心まちづくりとして世界的に注目されている取り組みですが、特に我が国においては、昨今のコミュニティをめぐる諸課題が山積する中、これまで以上にSCの手法の先進性が再認識され、コミュニティをめぐる諸課題の具体的・実践的課題解決手法としてその真価を発揮するであろうことを、私は確信しています。

プログラム

第1部 10:00～12:00「市民安全啓発映画祭」

10:00～11:00（大ホール）

- 1 記念上映 小林綾子主演 『パパは風になった』 文部科学省選定
(財)埼玉県交通安全協会推薦

作品紹介 「秩父の札所」を舞台とした映画

- 2 特別記念講演 「映像の中で安全安心をどう描くか」 映画監督 高木裕己氏

11:00～12:00（大ホール）

安全啓発映画上映と解説（日本市民安全学会 協力映画）

- 1 『事件事故から人を守る 町を守る～警察署のはたらき』
H29 教育映像祭優秀作品賞受賞 文部科学省選定 元警視庁管理官 山下弘忠氏
- 2 『火災から人を守る 町を守る～消防署のはたらき』
文部科学省選定 前横須賀市北消防署副署長 小澤光男氏
- 3 『防げるか？認知症～注目される食の力』
昌医会 葛西昌医会病院 村瀬恵子氏

第2部

時 間	内 容
13:00～ 13:50	記念鼎談 「セーフコミュニティ（SC）で『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」 ・久喜邦康秩父市長 ・白石陽子日本セーフコミュニティ推進機構代表理事 ・石附弘日本市民安全学会会長（モデレーター）

第3部 分科会（3会場、3分科会）

13:50	－ 休憩（13:50～14:05） －	
14:05～ 15:35	第1分科会 《会場：ホール》	
	《テーマ》 「SCで『つながる』安全・安心の創造」 《座長》 山本俊哉	特別講演 「セーフコミュニティがつなげる安全・安心まちづくりの協働」 山本 俊哉氏 【明治大学理工学部建築学科教授 （一社）子ども安全まちづくりパートナーズ代表理事】
		「データが繋げるSC市民安全のこころ」 ～秩父市市民アンケート調査結果と活用 富尾 淳氏 【東京大学大学院 医学系研究科 講師】
		【話題提供】「避難計画から地区防災計画へ繋がる地域防災」 高野 幸基氏 【前久那町会連絡協議会長】
		つなぐ・つながる セーフコミュニティステーション「区民ひろば」 八巻 規子氏 【豊島区地域区民ひろば課長】

	《副座長》 櫻田秀美 高橋幸太郎	【話題提供】 「通学路の動物デザインが繋げる子どもの安全・安心」
		櫻田 秀美氏 【D&D スタジオ代表】
		「山の案内板で繋がる山の安全（案内板の整備と安全登山の呼びかけ）」
		高橋 幸太郎氏【自然の中での安全対策委員会 委員長】
		S Cで繋がる分野横断的な安全・安心の取り組み（今後の課題）
		宮前 房男氏 【秩父市危機管理課（S C担当）次長】

時 間	内 容	
14:05～ 15:35	第2分科会 《会場：けやきフォーラム A,B》	
	《テーマ》 「S Cで『はぐくむ』安全・安心の創造」 《座長》 村瀬恵子 《副座長》 倉持隆雄 金子理恵子	特別講演 「どうはぐくむ「鍵と指紋」を守るころ」 ～レンズで盗まれるあなたの「鍵と指紋」新情勢
		富田 俊彦氏 【防犯設備士協会 特別顧問】
		「どうはぐくむ『ヘルメット・反射材』と交通安全運動」
		金子 理恵子氏 【交通安全対策委員会 委員長】
		「どうはぐくむ犯罪防止運動（最近の犯罪情勢と対策）」
		安部 一夫氏 【犯罪の防止対策委員会（秩父警察署生活安全課長）】
		「どうはぐくむ防犯パトロール・鍵かけ運動（不審者対策を含む）」
		富田 陽子氏 【犯罪の防止対策委員会 副委員長】
		「どうはぐくむ地域の絆、安全・安心のころ」 ～厚木市における不審者から子供を守る取り組み
		倉持 隆雄氏 【厚木市セーフコミュニティくらし安全課S C指導員】
		【話題提供】 「地域、防災、災害支援に対して、メーカーが発揮する『つながる、はぐくむ、とどける』ちから」
		櫛間 香奈氏 【ハッソー株式会社 マーケティング部マネージャー】
		【話題提供】 「どうはぐくむ高齢者の健康と安全・安心 ～作業療法士としての創意工夫～」
		松岡 公平氏 【らいおんハート整形外科リハビリクリニック統括部長、作業療法士】

時 間	内 容	
14:05～ 15:35	第3分科会 《会場：けやきフォーラムC,D》	
	《テーマ》 「SCが『とどける』安全・安心の創造」 《座長》 西田佳史 《副座長》 堀内裕子 多比羅幸男	特別講演 「ロボットがとどける高齢者の安全で活動的な生活」 ～神戸と昭島の取り組みから 西田 佳史氏 【産業技術総合研究所 人工知能研究センター首席研究員】
		「どうとどける転倒予防対策」 ～自宅内危険個所の啓発と茶トレ・秩父ポテくまくん健康体操の普及 多比羅 幸男氏 【高齢者の安全対策委員会 委員長】
		【話題提供】どうとどける『介護のかたちとところ』 ～買い物、通院難民を通じて見える地域の課題 福田 英二氏 【白岡市地域包括支援センターウエルシアハウス 施設長、看護師、ケアマネージャー】・
		「どうとどける自殺予防のかたちとところ」 ～自殺予防標語入り看板の設置とホットスポット対策 竹越 至氏 【自殺予防対策委員会 委員長】
		「どうとどける『いじめ防止』のかたちとところ」 根岸 カ氏 【セーフスクール推進校 秩父第二中学校 教頭】
		「どうとどける『サイバー・ネット空間の子どもの安全』」 菅野 泰彦氏 【全国読売防犯協力会 専任講師】
		「SCの安全安心を地域と次世代に届ける（再認証を願みて）」 ～自治会単位のきめの細かいセーフコミュニティ安全・安心活動等 向山 静雄氏 【箕輪町SC推進協議会アドバイザー】
		総括コメント 堀内 裕子氏 【シニアライフデザイン代表】

第4部 全体報告大会

15:35	- 休憩（15:35～15:50 会場移動-15分）		
15:50 ～ 16:40	1 全体報告会と討論	日本市民安全学会会長（モデレーター）	
	テーマ	「セーフコミュニティ（SC）で『つながる』『はぐくむ』『とどける』安全・安心のかたち」	
	・特別講演者（2分）および3分科会座長から論点・内容紹介（3分）	計5分×3	15分
	・討論		25分
	・日本セーフコミュニティ推進機構からのコメント	白石陽子氏	2分
	2 閉会のご挨拶に代えて（総括）	藤岡一郎名誉教授	5分